

スマート・オコメ・チェーンの活動について

令和5年5月

スマート・オコメ・チェーン
コンソーシアム事務局

スマート・オコメ・チェーンについて

農林水産省では、農産物検査が農産物流通の現状や消費者ニーズに即したものとなるよう、「農産物検査規格・米穀の取引に関する検討会」で議論を重ね、令和３年５月に「とりまとめ」として公表しました。

「とりまとめ」を踏まえ、農産物検査では、サンプリング方法の見直しや、機械鑑定を前提とした規格の策定等、順次、見直しを措置してきたところです。

前述の検討会では、農産物検査の見直しとともに、「穀粒判別器のデータを活用して、生産から消費に至るまでの情報を連携し、生産の高度化や販売における付加価値向上、流通最適化等による農業者の所得向上を可能とする基盤（スマートフードチェーン）をコメの分野で構築し、これを活用した民間主導でのＪＡＳ規格の制定を農林水産省は支援する。」こととされました。

このため、農林水産省では、令和３年６月に「スマート・オコメ・チェーンコンソーシアム」を設立し、令和５年産米からの活用を目標として、検討を進めているところです。

皆様のご支援とご協力をお願い致します。

スマート・オコメ・チェーンコンソーシアムについて

- 農産物検査規格・米穀の取引に関する検討会の結論を踏まえ、令和3年6月に「スマート・オコメ・チェーンコンソーシアム」を設立。
- 生産者、流通事業者、実需者、企業、消費者団体等、162会員が参加（5月10日現在）。
- コンソーシアムでは、「標準化ワーキンググループ」、「品質伝達ワーキンググループ」等を設置し、令和5年産米からの活用を目標として、各種情報の標準化やJAS規格について検討。

趣旨

生産から消費に至るまでの情報を連携し、生産の高度化や販売における付加価値向上、流通最適化等による農業者や米関連事業者の所得向上を可能とする基盤をコメの分野で構築し、これを活用した民間主導でのJAS規格制定を進める。

活動内容

- ・ スマート・オコメ・チェーンの構築に向け、海外事例調査、ワークショップの開催、現場検証を通じたスマート・オコメ・チェーンの検討
- ・ スマート・オコメ・チェーンで伝達される情報項目や表示方法等についての仕様の整理
- ・ 消費拡大・付加価値向上に資する消費者向け情報提供の内容、手法の検討（食味マップによる米の品質表現等）等を検討。

活動経緯・予定

- 令和3年度 農産物検査規格・米穀の取引に関する検討会とりまとめ（5月）
（結論③：「スマートフードチェーンとこれを活用したJAS規格の制定」）
「スマート・オコメ・チェーンコンソーシアム」設立（6月）
スマート・オコメ・チェーンコンソーシアム設立大会（8月）
標準化WG、輸出WG、講演会（精米事業者、食味の有識者、生産、流通、輸出）※その他、各種調査、会員インタビュー等を実施
- 令和4年度 品質伝達WG、実証プロジェクトを実施
- 令和5年度 令和5年産米から活用（目標）

体制

- （会長） 大坪 研一 新潟薬科大学 応用生命科学部応用生命科学科 特任教授
（副会長） 飯塚 悦功 東京大学名誉教授、公益財団法人日本適合性認定協会 理事長
亀岡 孝治 信州大学社会基盤研究所特任教授、三重大学名誉教授、（一社）ALFAE 代表理事
- 木村 良 全国米穀販売事業共済協同組合 理事長
金森 正幸 全国農業協同組合連合会 米穀部部長
- （幹事） 岩井 健次 株式会社イワイ 代表取締役
梅本 典夫 全国主食集荷協同組合連合会 会長
金子 真人 株式会社金子商店 代表取締役社長
説田 智三 日本生活協同組合連合会 農畜産物米穀グループ グループマネージャー
千田 法久 千田みずほ株式会社 代表取締役社長
中嶋 康博 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
夏目 智子 特定非営利活動法人ふぁみりあネット 理事長
藤代 尚武 日本規格協会ソリューションズ株式会社 執行役員
佛田 利弘 株式会社ぶった農産 代表取締役
古谷 正三郎 全国稲作経営者会議 会長
細田 浩之 （一社）全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会専務理事
山本 貴暁 わらべや日洋食品株式会社 購買部長

（敬称略）

（会員） 162企業・団体等（令和5年5月10日現在）

（事務局） 農林水産省農産局穀物課米麦流通加工対策室

（共同事務局：公益財団法人流通経済研究所農業・環境・地域部門）

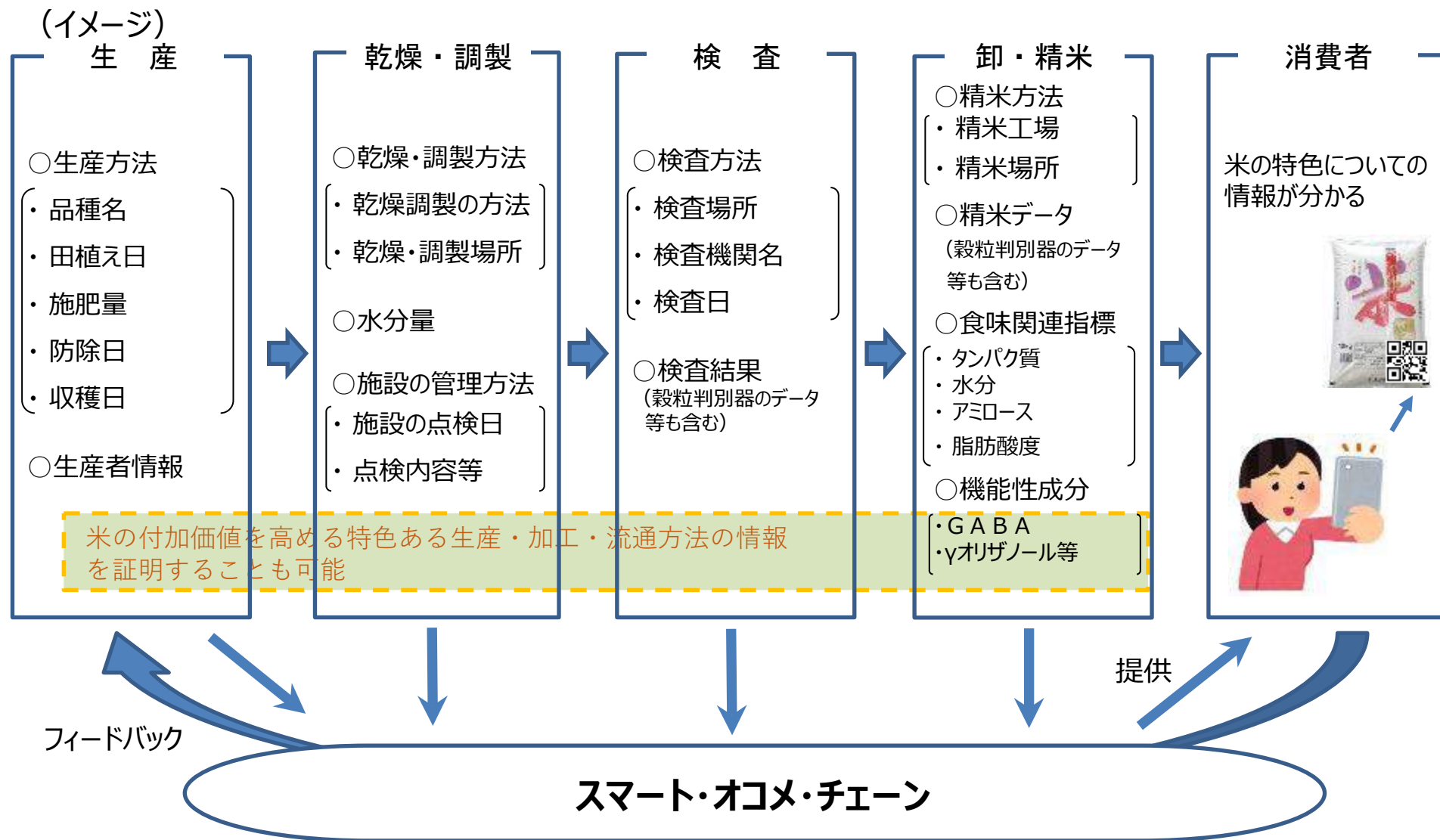
スマート・オコメ・チェーンコンソーシアム会員一覧

会社名・団体名・農園名	会社名・団体名・農園名	会社名・団体名・農園名	会社名・団体名・農園名
株式会社インフィニバリュー	村田米穀株式会社	全国地域婦人団体連絡協議会	一般財団法人日本規格協会
株式会社農林中金総合研究所	株式会社とうべい	全国農業協同組合連合会	標準化コンサルティングユニット 農林規格開発チーム
ベジタリア株式会社 事業開発部	千田みずほ株式会社	株式会社スマートアグリ・リレーションズ	与謝野町スマートグリーンビレッジ確立協議会
一般社団法人全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会	香川県	有限会社小池精米店	株式会社システムエース
SBIトレサビリティ株式会社	株式会社金のいぶき	伊万里市農業協同組合 営農畜産部 営農振興課	独立行政法人農林水産消費安全技術センター
株式会社千野米穀店	住友商事東北株式会社 エネルギー・生活関連グループ エネ	公益社団法人日本農業法人協会	株式会社 辻料理教育研究所
中橋商事株式会社	化・生活チーム	有限会社河判	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
希望食品株式会社	株式会社ヤマザキライス	株式会社イワイ	石川県
株式会社ミツハン	栃木県庁	木徳神糧株式会社	日本こめ油工業協同組合
株式会社ヤマタネ 食品本部	スマートアグリコンサルタンツ合同会社	いちかわライスビジネス株式会社	有限会社根本商店
有限会社シャリー	いわて平泉農業協同組合 営農部 米穀課	全国稲作経営者会議	J A全農インターナショナル株式会社
株式会社兼松	株式会社ケット 科学研究所	駒木米穀店	有限会社釜利谷米穀店
特定非営利活動法人エイサク	株式会社スマート	株式会社ジェイエイトんどうフーズ	株式会社プレナス 米づくり事業推進室
アクセンチュア株式会社	日揮グローバル株式会社	穀物乾燥貯蔵施設協会	株式会社マ克蘭サ
株式会社パウダーバンクジャパン	静岡製機株式会社	株式会社ぶった農産	メルヘングループ合同会社
一般社団法人社会デザイン協会	日本災害医療支援機構	公益社団法人日本べんとう振興協会	株式会社ゼンショーホールディングス
フォス・ジャパン株式会社	J A茨城県中央会県域営農支援センター	株式会社スペースシフト	株式会社クボタ
株式会社亘成	株式会社むらせ	佐川急便株式会社	のむら産業株式会社
津田物産株式会社(津田物産グループ企業)	株式会社コメフル	わらべや日洋食品株式会社	有限会社横田農場
株式会社サタケ	ウォーターセル株式会社	株式会社金子商店	株式会社つちや農園
株式会社笑農和	パナソニック株式会社	全農パールライス株式会社	三重大学 大学院生物資源学研究所 食品生物情報工学研究室
日本通運株式会社 公用営業部	一般財団法人魚沼農耕舎	ホクレン農業協同組合連合会 米穀事業本部 米穀部	三井住友海上火災保険株式会社
ノドバンク株式会社 ノーマルソリューション部 e-kakashi	マルナカ松屋商事株式会社	新潟県 農林水産部 食品・流通課	井関農機株式会社
株式会社オプティム 農業事業部	東洋ライス株式会社	正林国際特許商標事務所	一般社団法人日本精米工業会
ヒラノ技興株式会社	全国米穀販売事業共済協同組合	日本知財標準事務所	大和産業株式会社
株式会社LOZI	福岡産株株式会社	片倉コープアグリ株式会社	伊丹産業株式会社
日本生活協同組合連合会	北海道大学 農学研究院 食品加工工学研究室	はくのや米穀店株式会社	食ライフデザイン株式会社
新潟薬科大学 応用生命科学部	有限会社米村商店	ホクレン農業協同組合連合会 米穀事業本部 パールライス部	佐渡農業協同組合 営農振興部販売企画課
株式会社農業サポートセンター	一般財団法人全国瑞穂食糧検査協会	幸南食糧株式会社	株式会社KAWACHORICE
一般社団法人ALFAE	株式会社ヨコショク	AgGateway Asia	株式会社アイティ・イニシアティブ
株式会社前川総合研究所	一般財団法人日本米穀商連合会	東部稲作研究会	株式会社新倉
JAT株式会社	讃光工業株式会社	アイアグリ株式会社	やまびこ合同会社
神戸大学	全国米穀工業協同組合	ヤンマーグリーンシステム株式会社	伊藤忠食糧株式会社
株式会社百笑市場 事業統括部	株式会社イケノベ	公益社団法人日本炊飯協会	佐久浅間農業協同組合 営農経済部米穀課
株式会社インテグリティ	沖縄食糧株式会社	藤田農園	food field creative
株式会社たがみ	福島さくら農業協同組合	新篠津村農業協同組合	愛知県稲作経営者会議
農事組合法人おおが	株式会社神明	阪神米穀株式会社	株式会社農業生産法人田仲農場
株式会社ヒョウベ	高山米穀協業組合	株式会社Replow	有限会社戸塚正商店
農事組合法人丹波たぶち農場	合同会社ファーム橋本	黒川まるいし農場株式会社	株式会社事業性評価研究所
有限会社高本農場	合名会社平澤商店	東京都米穀小売商業組合	株式会社シブヤ
株式会社米福	扶桑電通株式会社	Toyooka AgRestart	株式会社八代目儀兵衛

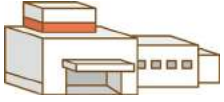
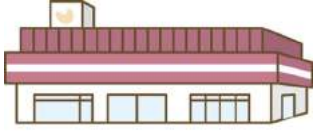
スマート・オコメ・チェーンによる生産から消費に至るまでの情報の連携と活用

○生産・加工・流通方法の情報がサプライチェーンを通じて共有され、消費者に商品の特色を伝達。

○国産品の国内外への供給拡大や付加価値を高めることにより農業者の所得向上につながるものとして期待。



米袋のQRコード等から消費者に届く情報の例（イメージ）

スマート・オコメ・チェーン 基本情報 名称： 原料玄米： 産地 品種 産年 使用割合 精米時期 販売者 👍 メッセージ	スマート・オコメ・チェーン 商品情報  このお米は、〇〇県産コシヒカリ 5kgです。 水分は〇%～〇%の範囲に管理し、タンパク含量を〇%以下に抑えるなど、おいしさこだわったお米です。 粘りに影響するアミロース含量を〇%以下に抑え、粘りが強いお米です。 👍 メッセージ	スマート・オコメ・チェーン 生産者情報①  〇〇ファーム 〇〇県で水稻を生産する農家です。 〇〇に工夫して美味しい米づくりに努力しています。 👍 メッセージ	スマート・オコメ・チェーン 生産者情報② 〇〇ファーム ・J G A P取得 ・〇〇賞受賞 ・エコファーマー ・認定農業者 生産者W E Bサイト https://www.maff.go.jp/ 👍 メッセージ	スマート・オコメ・チェーン 玄米情報①  👍 メッセージ
スマート・オコメ・チェーン 玄米情報② このお米は〇〇県〇〇市の棚田で作った有機無農薬で栽培したお米です。 水分含量が食味に良い14%～15%になるように仕上がっています。 👍 メッセージ	スマート・オコメ・チェーン 精米情報①  〇〇会社 住所：〇〇県〇〇市〇〇 ・〇〇工場 住所：〇〇県〇〇市〇〇 事業者W E Bサイト https://www.maff.go.jp/ 👍 メッセージ	スマート・オコメ・チェーン 精米情報② 当社精米工場は、HACCPの基準に基づいた衛生管理を行っています。 〇〇工場 ・ISO22000 ・精米HACCP 👍 メッセージ	スマート・オコメ・チェーン 販売店からの情報  〇〇スーパー 住所 〇〇県〇〇市〇〇 〇〇駅徒歩〇分 https://www.maff.go.jp/ 👍 メッセージ	スマート・オコメ・チェーン オコメチェーンからの情報 粘りの強いお米には、以下の料理がおすすめです。  レシピ 👍 メッセージ

店頭での活用例（イメージ）

- 小売事業者や外食・中食事業者等は、スマート・オコメ・チェーンを通じて玄米・精米等の情報を入手でき、自らが設定・入力した情報を消費者に簡単に伝えることができる。

小売事業者

〇〇ファームの
こだわりのお米
〇〇県産
コシヒカリ 5kg
〇〇〇円

.....
.....
.....

中食・外食事業者

当店のご飯に使用
しているお米は
以下のとおりです

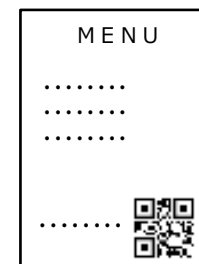
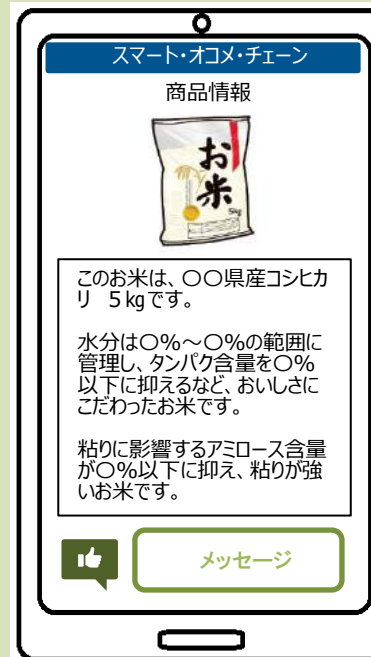
生産者：〇〇ファーム
生産地：〇〇県
品種：コシヒカリ



ロゴ
マーク

スマート
オコメ・チェーン

当店のオコメは生産から流通段階の管理情報を把握する「スマート・オコメ・チェーン」を利用し、安全・安心の確保に努めています。米袋のQRコードから、生産者や精米事業者の情報をご覧いただけます。



精米事業者や小売事業者が届く情報の例（イメージ）



- ① 発行された専用アプリ・サイトから登録ID/PWでログイン
 - ② 個品識別番号を入力（バーコード・QRコード・RFID等を読み取り）
 - ③ 生産者等が許可した事業者・項目等が画面に表示される。
- ※ 上記の方法の他、APIによりシステム連携が可能

※ IDを持たない者には公開されない。

スマート・オコメ・チェーン

個品識別番号:0123456789012・

01 品名：〇〇米

05 荷造り包装：フレコン

08 容積重：819g/ℓ
産物検査証明

09 水分：14.5%
農産物検査証明

25 白未熟粒：10%
農産物検査証明

スマートフォン
管理画面

スマート・オコメ・チェーン

個品識別番号:0123456789012・.....

01 品名：〇〇米

05 荷造り包装：フレコン

08 容積重：819g/ℓ
産物検査証明

09 水分：14.5%
農産物検査証明

25 白未熟粒：10%
農産物検査証明

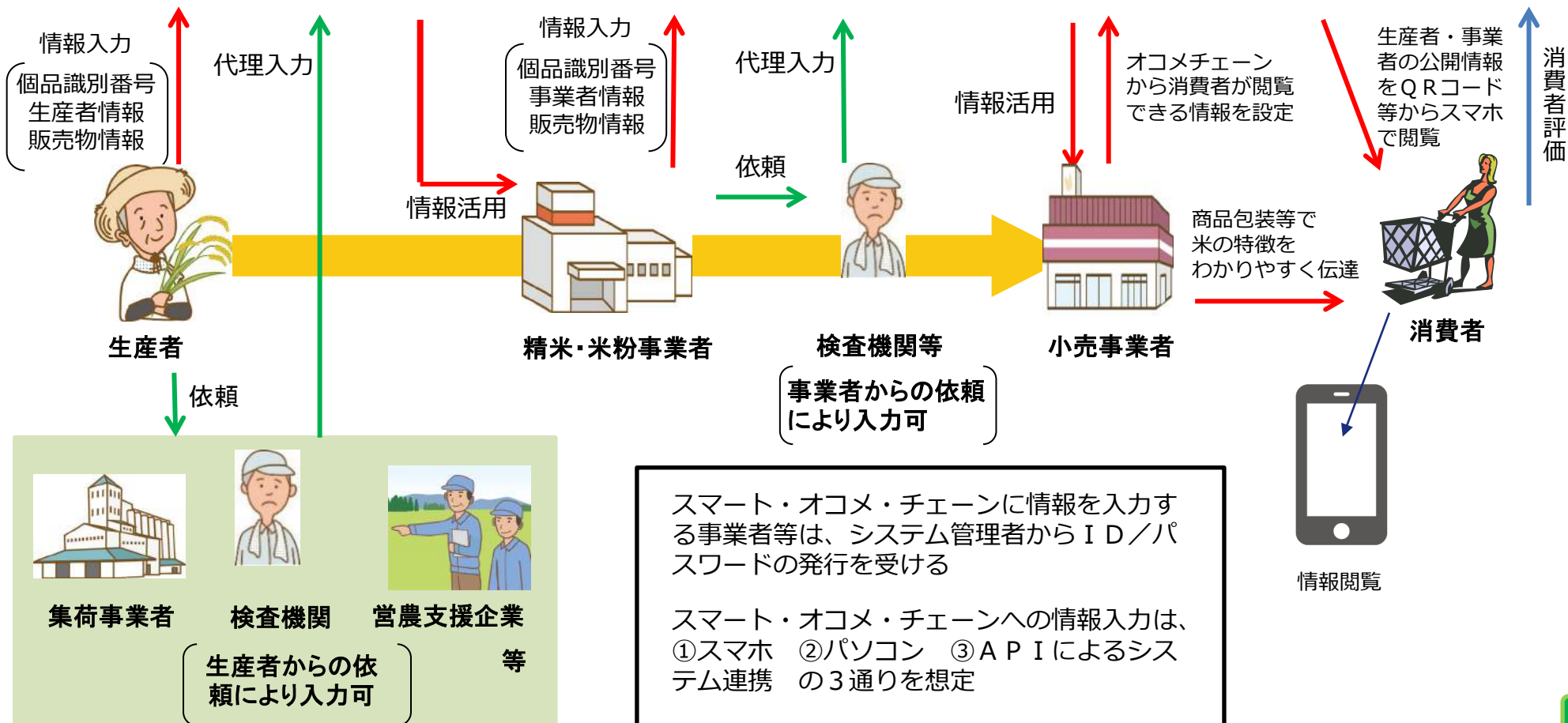
パソコン
管理画面

入荷した米の品質・在庫管理や、精米時のとう精時間や色彩選別機
のモード選択等にデータが活用できる。

スマート・オコメ・チェーンに連携できる情報について

- スマート・オコメ・チェーンには、玄米や精米等の販売者（生産者、精米事業者、米粉事業者等）や、それらの者から許可を受けた者が玄米・精米等に関する情報をオコメチェーンに入力し、生産者等が許可した販売先等の第三者に情報を提供することができる。

スマート・オコメ・チェーン



個品識別番号について

- 米袋に国際規格（GS1）に準拠した個品識別番号（ID番号、バーコード・QRコード・RFIDのいずれにも対応）を付けてナンバリングし、このナンバーに米の品質に関する情報を紐も付け、情報提供者が許可した範囲で、関係者が情報を取得できるとともに、評価をフィードバックできる仕組みを想定。

個品識別番号とそれに紐付く米データ

個品識別番号
14桁の事業者番号
+
11桁のシリアル
（又はロット）No.
（国際規格に整合）



(01)04912345123459(21)12345678901

米データ（玄米の場合）

01	産地
02	品種
03	産年
04	容積重
05	死米
06	着色粒
10-15	食味関連指標
20-29	栽培関連指標 等

情報フォーマットの内容を個品識別番号に紐づける

- ※ 販売戦略に応じて必要な項目のみデータを入力
- ※ 各データの公開範囲を設定できる

<個品識別コード案>



(01)04912345123459(21)12345678901

GTINを示すAI	事業者コード	アイテムコード	CD列格を示すAI	シリアル番号11桁（数字のみ）
-----------	--------	---------	-----------	-----------------

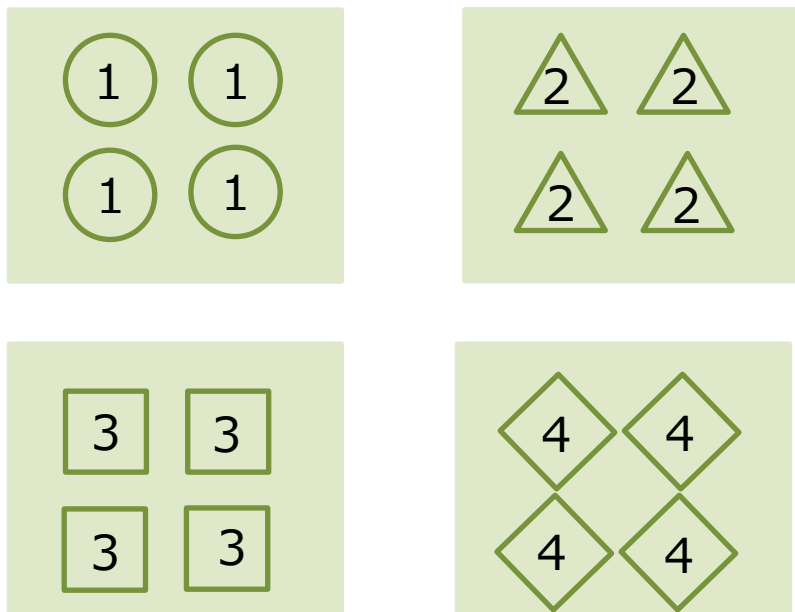
GTIN14（JAN13桁＋梱包CD1桁）



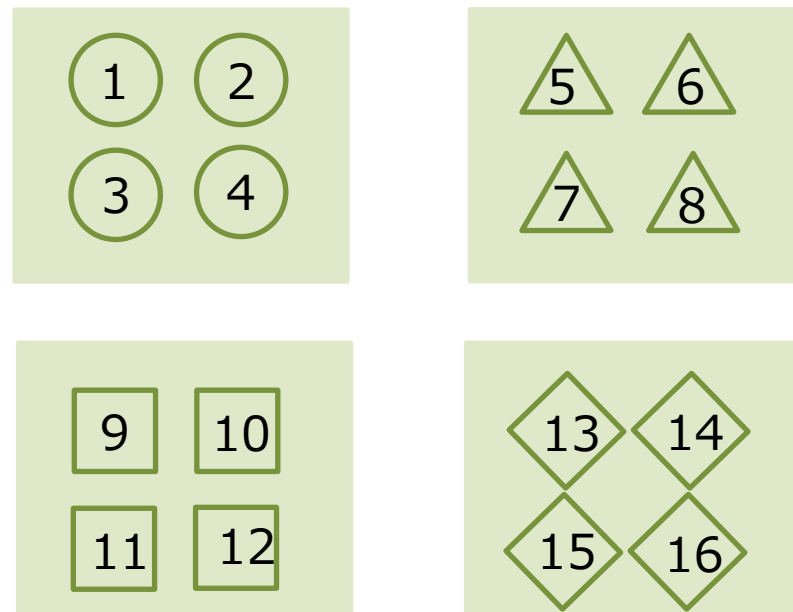
情報の入力単位

- スマート・オコメ・チェーンに情報を入力する項目は、個品識別番号毎に入力。
- 個品識別番号は、共通ルールに基づき生産者等が個々にナンバリング。
- ロット単位でナンバリングすることも、個袋毎に「シリアル」としてナンバリングすることも可能。

同一ロットには同一の個品識別番号とする方法



個袋毎に連番として同一ロットには同じ情報を付与する方法



※ 1～4、5～8、9～12、13～16は
同じ情報を付与する

情報フォーマット素案（Ver2）

生産者・事業者情報

共通事項

玄米

精米

その他

生産者名	生産者住所	生産者コード
圃場コード	生産者メッセージ	生産者画像
生産者メルアド	生産者ＨＰ	GAP認証取得
エコファーマー	認定農業者	blank

事業者名	事業者住所	事業者コード
精米工場名	事業者メッセージ	事業者画像
精米工場コード	事業者メルアド	事業者ＨＰ
FSSC22000	ISO22000	ISO14001
ISO9600	HACCP	精米HACCP

生産者・事業者名	生産者・事業者住所	生産者・事業者コード
加工工場コード	FSSC22000	ISO22000
ISO14001	ISO9600	HACCP
ハングルテン製造 工程管理JAS	blank	blank

販売物に関する情報

情報入力者ID	情報入力者名	個品識別番号	産地	品種	産年	栽培管理情報
品名	ロット数量	内容量	包装個数	水分	着色粒	異種穀粒
異物	砕粒	タンパク質	アミロース	脂肪酸度	GABA	γオリザノール
イノシトール	ビオチン酸	ビタミン	計測場所	blank	blank	blank

農産物検査証明番号	農産物検査日	登録検査機関コード	荷造り包装	包装重量
調製時期	調製時のフルイ目	等級	容積重	白未熟粒
死米	胴割粒	粒厚	残留農薬	カドミウム
ヒ素	放射性セシウム	玄米画像	blank	blank

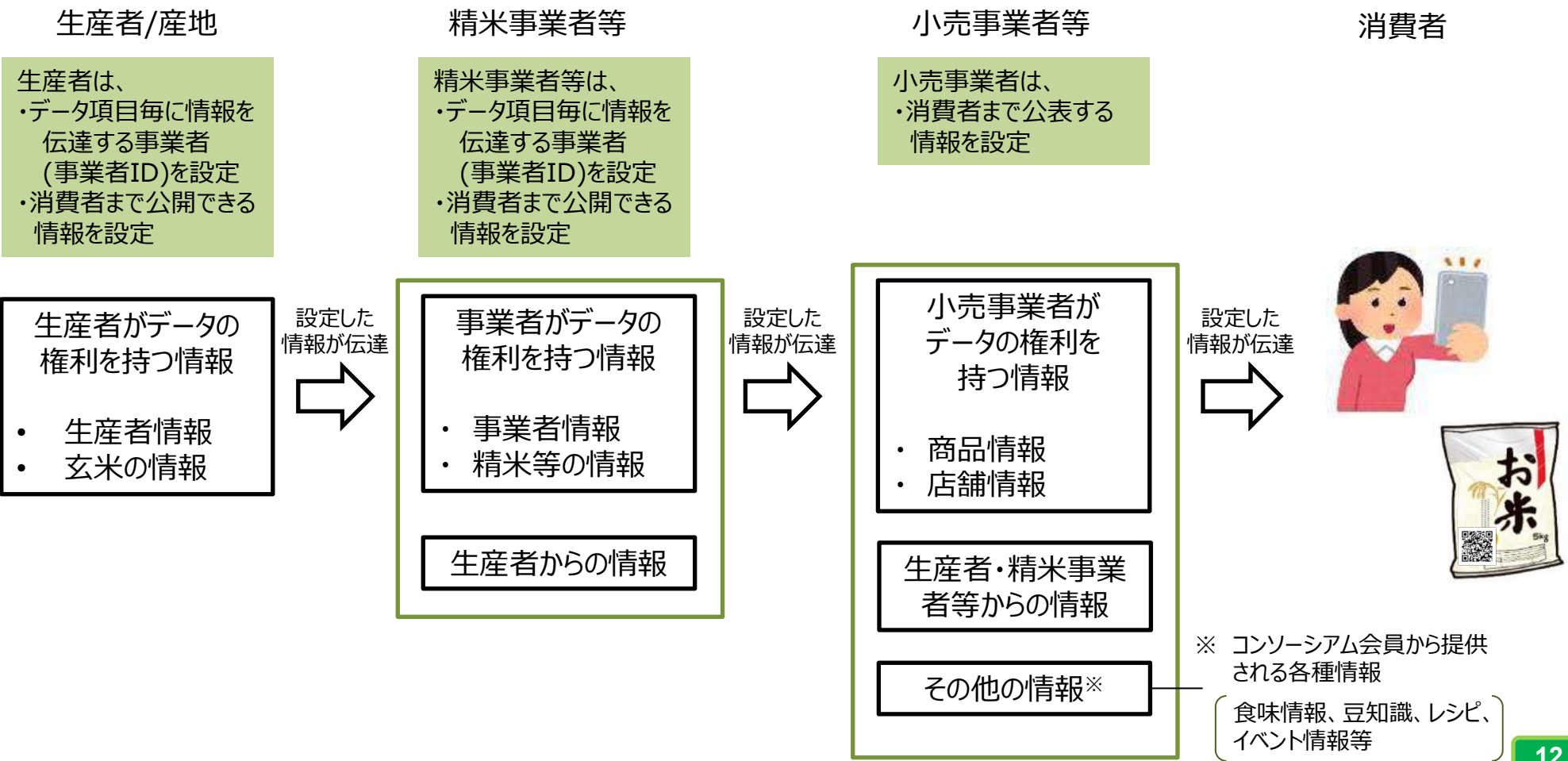
精米時期	使用割合	白度	被害粒	粉状質粒
水浸割粒	胚芽残存率	濁度	劣化度	精米JAS
精米画像	blank	blank	blank	blank

稲わら	粃	糠	米粉
ハングルテン米粉使用マーク	酒米	blank	blank

- ・情報フォーマットの全ての情報を入力する必要はなく、利用者の流通・販売方法に応じ、必要となる項目のみ情報を入力する。
- ・上記は項目のイメージであり、引き続き会員の提案を受けつつ、各項目の測定方法・表示方法を含めて整理する。
- ・その際、複数の測定方法・表示方法がある場合には、当面、複数の方法をフォーマットに記載することを可能とする。

スマート・オコメ・チェーンに登録した情報の公開範囲の設定について

- 商品（玄米・精米等）に関し、生産者や精米事業者等がスマート・オコメ・チェーンに入力した情報は、入力段階では非公開となる。
※ その商品を販売する権限を持つ者（例えば生産者、精米事業者）は、その商品に関する情報を見ることができる。
- 生産者・精米事業者等が情報を公開する事業者のIDを入力すれば、その者には情報が公開される。
※ また、生産者・精米事業者等は、消費者に公開しても良い情報を設定できる。
- 最終販売者（小売事業者等）は、その商品について、消費者がオコメチェーンを通じて閲覧できる情報を設定することができる。

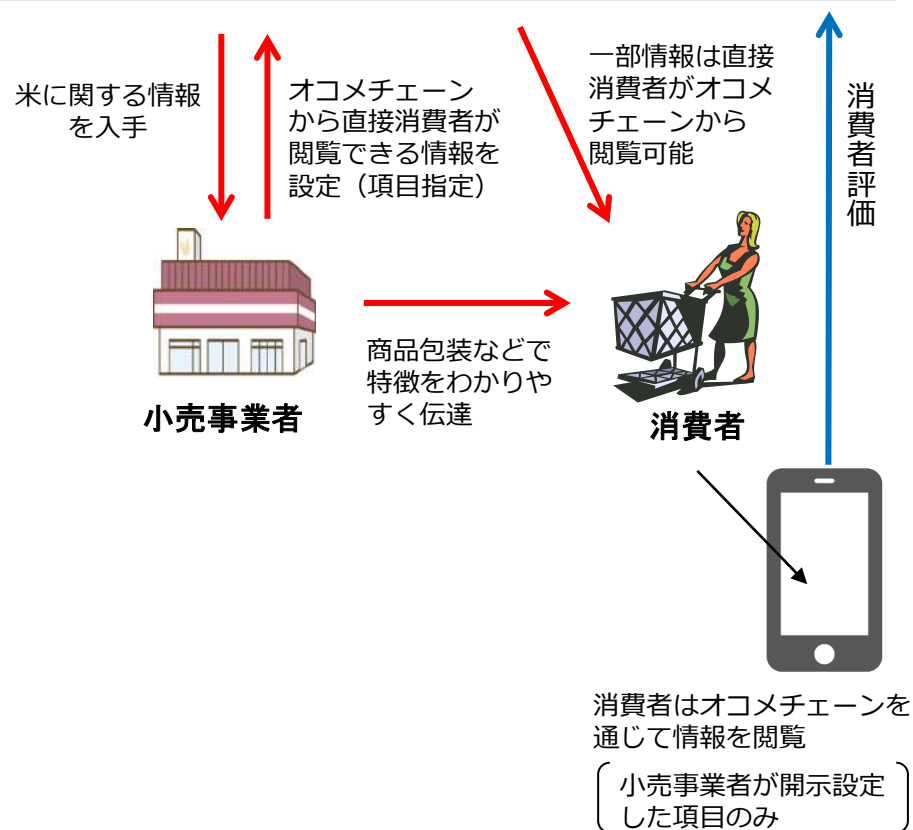


スマート・オコメ・チェーンから消費者に伝達する情報の設定・管理について

- 小売事業者等が、スマート・オコメ・チェーンの情報を活用して、どの情報を消費者まで表示するのかを設定。
- スマート・オコメ・チェーンの管理画面を通じて事業者が消費者に伝える情報を設定・提供することができる他、スマート・オコメ・チェーンからデータを事業者のシステムにダウンロードして、事業者のシステムから必要な情報を消費者に届けることができる。
(オコメチェーンを通じて項目指定での開示も可能であるが、自社システムでリッチなデータを見せることも可能)

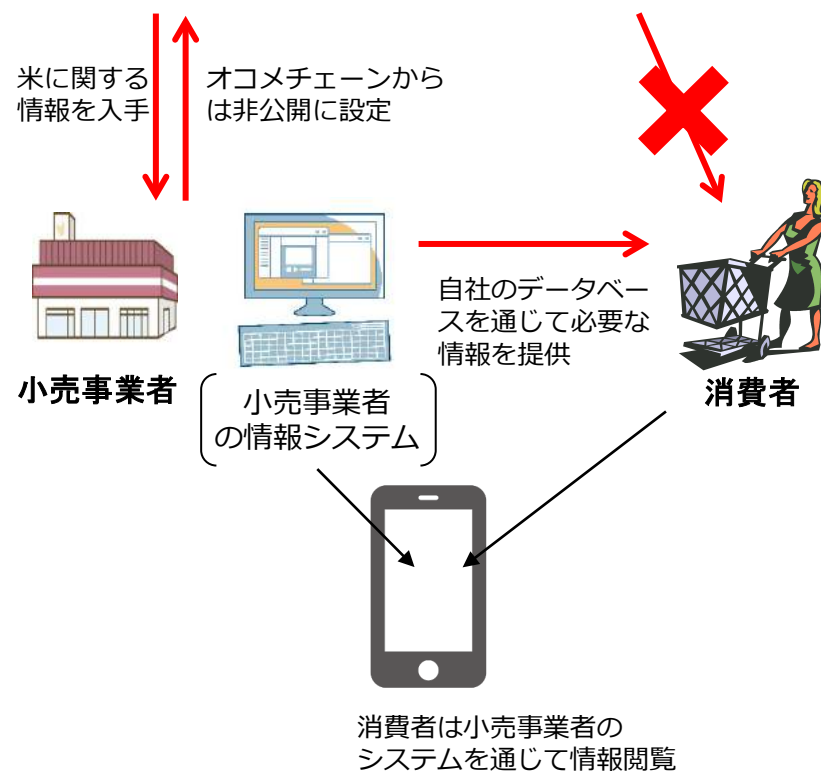
消費者への伝達方法①（公式開示）

スマート・オコメ・チェーン



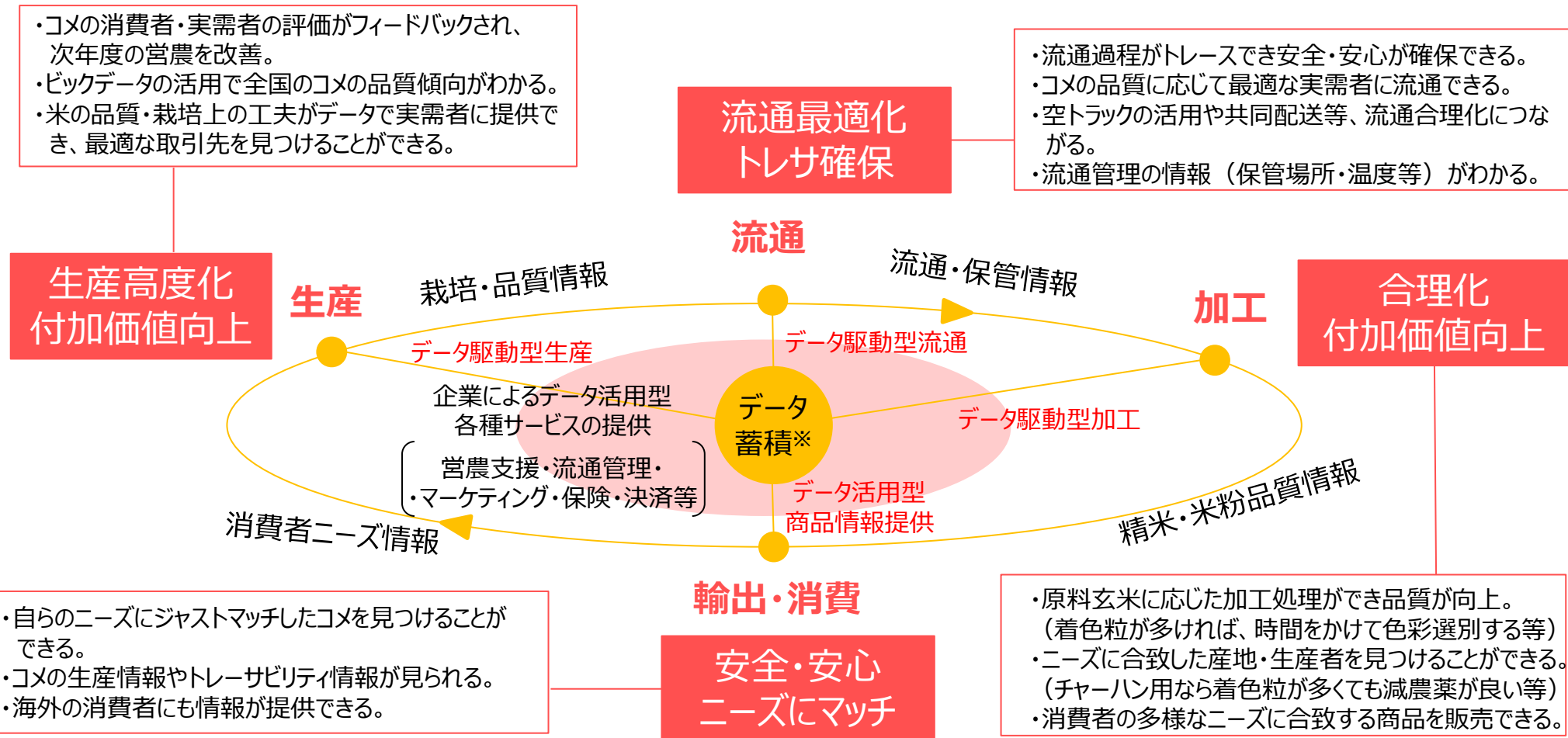
消費者への伝達方法②（独自開示）

スマート・オコメ・チェーン



スマート・オコメ・チェーンによるデータ駆動型の未来の米生産・流通・消費（イメージ）

- スマート・オコメ・チェーンより、データ駆動型の生産・流通・加工が可能となり、生産・流通・加工の大幅な高度化・合理化が期待。
- 消費者には、産地・品種・産年のみに留まらず、生産者の創意工夫や米の食味に関する情報、トレーサビリティに関する情報等、米に関連する多様な情報を提供することが可能となる。また、消費者の評価を生産者等にフィードバックすることにより消費者ニーズに応じた米づくり・営農改善が促進されることが期待。



※ 提供者から承諾された場合にデータを蓄積し、個人情報には含まないよう留意。

スマート・オコメ・チェーンが拓く未来

・スマート・オコメ・チェーンの利活用で蓄積するデータを研究開発や企業等が活用して知識化・価値化することにより、更に米関連産業の健全な発展と農業者の所得向上に寄与するとともに、SDGsや持続的な食料生産システムの構築、みどりの食料システム戦略の実現につながる、世界に誇るスマート・オコメ・チェーンとして発展。

スマート・オコメ・チェーンで
蓄積されるデータ

↓
コンソーシアム会員が活用

価値化

(価値化の例)

環境

食品ロス削減

品種・育種

(参考) サイバー・フィジカル・システム (CPS)

実世界（フィジカル空間）にある多様なデータをセンサーネットワーク等で収集し、サイバー空間で大規模データ処理技術を駆使して分析/知識化を行い、そこで創出した情報/価値によって産業の活性化や社会問題の解決を図っていく。

- ・ 生産から消費までのCO2排出量を算定できるシステムを開発。
商品情報としてカーボンフットプリント（温室効果ガス排出量）を記載することで環境にやさしい生産・流通・消費を促進。
- ・ もみがら、米ぬか、稲わらの有効利用による副資源の有効活用を促進。
- ・ 需要予測に基づく流通・米関連製品の提供システムを開発し、食品ロス※を削減。
※FAOが定義する「Food Loss」と「Food Waste」を含む。
- ・ 「食味」を成分・外観形質等のデータを元にAI等を活用して分類し、「味覚マップ」として定量的に表現するシステムを開発。消費者の嗜好や調理方法に応じて選択することが可能に。
- ・ ゲノム情報、気象情報、玄米・精米の品質情報、消費者の評価等に関するビッグデータを活用した育種を実施。短期間で画期的新品種を開発。

スマート・オコメ・チェーンに蓄積するデータと活用例

スマート・オコメ・チェーンで蓄積されるデータ（例）

個品識別番号

紐づくデータ

地域、産地、品種、産年、外観形質
(精米・玄米)、食味成分・食感、
消費者・実需者の評価 等

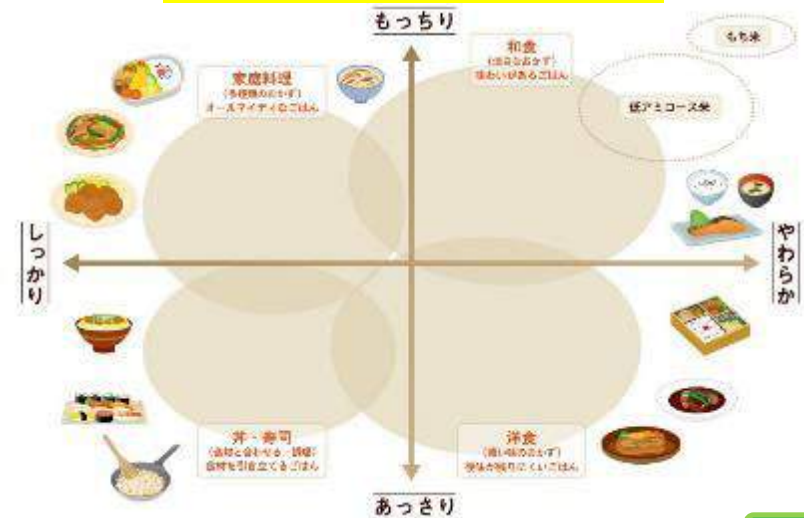
※ 個人情報 は蓄積せず、他の情報も保存期限を設定して削除する

価値化の例

・品種、外観形質、食味成分・食感と消費者の評価に関するビッグデータを活用してAI解析による「日本米の味覚マップ」を作成。

・米の食味を定量的に表現することで、用途や料理に応じた米が選択可能に。

「日本米」の味覚マップ



スマート・オコメ・チェーンの進め方

①スマート・オコメ・チェーンで必要な情報項目を整理する

情報の「ものさし」をそろえる。

標準化WGが担当。ただし、専門の分野に関するWGが設置された場合は当該WGで検討・整理し、標準化WGが助言・確定。

同時に、WG（輸出WG等）で情報フォーマットに記載された項目を活用したJAS規格を検討。

②スマート・オコメ・チェーンの利用を開始し、情報を蓄積

情報を利用して価値を生み出す。データを蓄積する。

①の情報フォーマットを活用し、生産から消費までのデータを連携・活用。併せてJAS規格を活用した流通・販売を開始。

※「農業分野におけるAI・データに関する契約ガイドライン」等に準拠し、蓄積する情報は提供者から承諾された場合にデータを蓄積し、個人情報を含まないよう留意する。

③スマート・オコメ・チェーンのビッグデータから更なる価値を生み出す

②により蓄積されるビッグデータをコンソーシアム会員が活用し、新たな価値を生み出す。

必要に応じて①の情報フォーマットに追加・改正する。

※ 本コンソーシアムでは、コメの生産から消費までの情報を連携させることに必要と必要な検討を行うが、政府全体で農業以外の分野も含めて検討がなされている事項や、農業分野でコメ以外の分野も含めて検討がなされている事項については、その決定事項に基づく。

（参考 政府決定事項）

- 農業分野におけるAI・データに関する契約ガイドライン
- 農業分野におけるオープンAPI整備に関するガイドライン
- 農業ITサービス標準利用規約ガイド
- 農業分野におけるデータ契約ガイドライン
- 農業情報創成・流通促進戦略に係る標準化ロードマップ
- 農業情報創成・流通促進戦略
- 農業ITシステムで用いる農作業の名称に関する個別ガイドライン
- 農業ITシステムで用いる環境情報のデータ項目に関する個別ガイドライン
- 農業ITシステムで用いる農作物の名称に関する個別ガイドライン
- 農業情報のデータ交換のインターフェースに関する個別ガイドライン
- 農業ITシステムで用いる生育調査等の項目に関する個別ガイドライン
- 農業ITシステムで用いる登録農薬に係るデータ項目に関する情報（暫定版）
- 農業ITシステムで用いる登録肥料等に係るデータ項目に関する情報（暫定版）
- 農業ITシステムで用いる生産履歴の記録方法に係る情報（暫定版）
- 農業ITシステムで用いる水管理情報のデータ項目に関する情報（暫定版）

（参考 分野横断的に検討されている事項）

- 穀物乾燥機等におけるデータ連携
- スマートフードチェーンプラットフォーム（SIP）

データ連携に関するスマート・オコメ・チェーンコンソーシアムでの検討事項と品目横断的な検討状況

- ・スマート・オコメ・チェーンコンソーシアムでは、商品としてのコメ（粳がら等の副産物や米粉等の米加工品を含む）を流通させる際に必要となる情報のフォーマットを作成する。
- ・品目横断的にデータ連携を検討すべき事項は本コンソーシアムの対象としない。（必要に応じて関係部局に検討を要請する）
- ・本コンソーシアムでは、新たなプラットフォームの開発は行わず、必要な情報の内容・測定方法・表示方法・情報の活用方法を検討し、その結果を踏まえ、最適なプラットフォームを選択する。

○ スマート・オコメ・チェーンコンソーシアムの検討範囲

○ データ連携に関し政府内で分野横断的に検討・整理されている事項・組織（例）

【事項】

- 農業分野におけるAI・データに関する契約ガイドライン
- 農業分野におけるオープンAPI整備に関するガイドライン
- 農業ITサービス標準利用規約ガイド
- 農業分野におけるデータ契約ガイドライン
- 農業情報創成・流通促進戦略に係る標準化ロードマップ
- 農業情報創成・流通促進戦略
- 農業ITシステムで用いる農作業の名称に関する個別ガイドライン
- 農業ITシステムで用いる環境情報のデータ項目に関する個別ガイドライン
- 農業ITシステムで用いる農作物の名称に関する個別ガイドライン
- 農業情報のデータ交換のインタフェースに関する個別ガイドライン
- 農業ITシステムで用いる生育調査等の項目に関する個別ガイドライン
- 農業ITシステムで用いる登録農薬に係るデータ項目に関する情報（暫定版）
- 農業ITシステムで用いる登録肥料等に係るデータ項目に関する情報（暫定版）
- 農業ITシステムで用いる生産履歴の記録方法に係る情報（暫定版）
- 農業ITシステムで用いる水管理情報のデータ項目に関する情報（暫定版）

【組織】

- 農機API共通化コンソーシアム
- スマートフードチェーンプラットフォームコンソーシアム（SIP）

	米（副産物・加工品を含む）に関する事項	横断的事項	コメ以外の事項
情報の内容、測定・表示方法、活用方法	本コンソーシアムで検討	必要に応じて関係部局に要望を伝える	
データ連携システム	コンソーシアムではプラットフォームの開発は行わない 〔 最適なプラットフォームを選択 〕		

スマート・オコメ・チェーンに関するコンソーシアム会員からの意見①

○ コンソーシアム事務局では、情報フォーマットの内容をはじめとして、スマート・オコメ・チェーンの内容に関してコンソーシアム会員と意見交換を実施。



生産者から事業者が届くデータと、事業者が消費者に示す情報は異なる。消費者にはデータの数値ではなく、わかりやすく示すことが重要。



消費者には、農業者や産地の努力が見えるような写真やメッセージが有効なのではないか。



小さくはじめて広げていくということ、共感をもってやっていく人から始めていくのが近道ではないか。



穀粒判別器の精米の測定値などが各社で一定精度になれば良い。



情報の単位（ロットの大きさ）をどうするのが重要。
ロットが細かすぎると対応できない。



消費者に精緻なデータを見せても理解されない。



その米にあう料理などの情報もあったら良い。



農薬、カドミ、ヒ素の含有量なども重要。



生産・流通段階の水管理が重要。
低いと食味が失われ、高いとカビの発生につながる。

スマート・オコメ・チェーンに関するコンソーシアム会員からの意見①



輸出に活かす情報を検討する際には、現在実施している海外規格調査の結果を踏まえて検討すべき。



情報フォーマットの項目について、多様な測定方法がある項目があるため、多様な測定方法を認めるべき。



食味は料理等において一律ではないので、多様な示し方があるため、多様な示し方を認めるべき。



オコメチェーンの情報は流通段階だけではなく、生産面でも大いに参考になる。



米粉や酒米など、米加工品をもっと重視すべき。



オコメチェーンの情報は流通段階だけではなく、生産面でも大いに参考になる。



環境への配慮等に関する情報も重要。将来は二酸化炭素排出量なども指標化できるのではないかな。



生産、流通、加工、調理に至るオコメ関連業界が集まって検討できることが素晴らしい。



粳穀や糠などの副産物に関する情報も重要。

スマート・オコメ・チェーンに関するコンソーシアム会員からの意見③



同一プラットフォーム上で取引ができるようになれば、流通コスト、営業活動に要するコストが軽減されるとともに、脱炭素社会やサステナブルな社会に貢献できていると考えている。



冷食に使う米は多収米を導入し、温暖化に対応し、そこそこ食味があって米の単価を下げる栽培ができると良い。



輸出に必要な規格はタイプごとに複数あるのではないかな。



日本の強みを生かしたお米の良さ、安全性、情報の発信、プラットフォームの構築が重要。



輸出には、産地や品種ではなく、日本米との優位性を数値で示すブランドが必要。



調製段階のデータは生産に有効。例えば、白未熟粒の割合は収量データと同等に重要な指標となる。



データの共有は大変良いと思うがデータが一人歩きするとおかしくなる可能性があり、心配



流通段階で多くの情報が付与されるため、販売面で消費者に伝える情報が拡大することは大変魅力的。



米と健康に関する情報を消費者にアピールすることが重要

(参考) スマート・オコメ・チェーンと他のデータ連携システムとの関係

- スマート・オコメ・チェーンは、生産者、流通事業者、実需者、ITベンダー等がモノであるコメ（個品識別番号）にひも付く情報をコンソーシアムが定める情報フォーマットに基づいて、公表範囲を定めた上でデータを入力・接続し、関係者に届けることができる。
- この仕組みを活用して、既存の情報プラットフォームからスマート・オコメ・チェーンの情報を入力・接続して幅広い関係者に届けることができるほか、逆にスマート・オコメ・チェーンから情報を取出して既存のプラットフォームに入れ、既存のプラットフォームの情報を拡大・強化することも可能となる。

